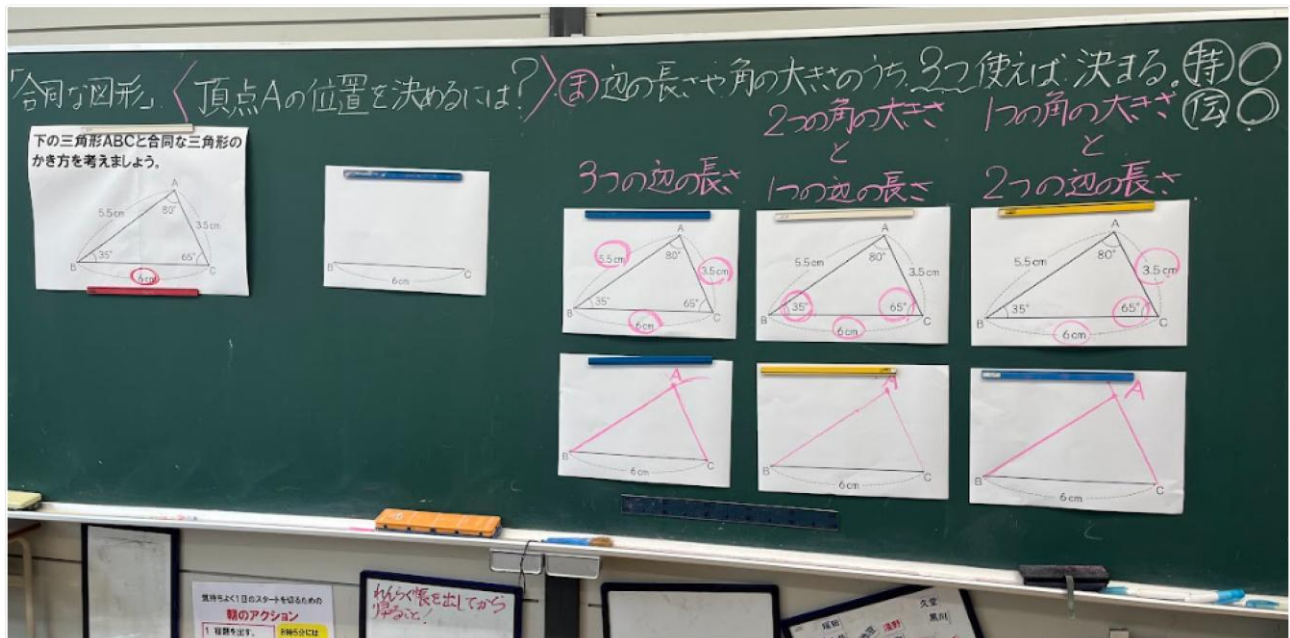


compass ~コンパス~



提案授業の参観、ありがとうございました ～5年算数科「合同な図形」～

お忙しい中での参観、そして、授業整理会での活発な協議、ありがとうございました。
今後の授業づくりを進めていくうえで、大切なことについて、改めてみなさんで確認することができました。以下、授業整理会で出された意見等についてまとめます。



【ねらい】 ねらいの達成 : 71.4%

図形が「決まる」という意味を考え、合同な三角形をかくために、必要な構成要素（辺や角）の組み合わせを考えることができる。【思考・判断・表現】

【授業者より】

○スライド上で3つの頂点の位置が決まれば、三角形の形が決まることを押さえ、頂点Aの位置を決めればよいというゴールを明確に示すことができた。また、使う道具や構成要素等についてもある程度の見通しを持たせたので、自力解決の際は概ね自分の考えをかく（作図）することができていた。

△思考・判断・表現の姿を見取り、個に応じた適切な支援をすることが難しかった。この時間、何ができていればよしとするのかという規準が曖昧だった。授業のどの場面で思考・判断・表現を評価すればよいのか迷いがあった。

【授業整理会のグループ協議より】

(成果)

見通しをもたせる導入の工夫

スライドを活用して頂点Aの位置を提示したり、穴埋め問題で既習事項を確認したりしたことで、児童が「今日はAの位置を決めればよい」という本時の目的を明確に理解できていた。

その場での学び方の価値付け

フリーで交流した後、友達から聞いた方法でもう一度取り組んでいる児童の姿を価値付けたことで、他の児童にとっても「あのように学習すればよいんだ」という意識を持たせることができた。

(課題と具体的な改善策)

交流の質と広がり(アウトプットの工夫)

特定の児童との交流で終わってしまったり、自分から動けずに座ったままの児童がいたりした。

↓

交流の前に隣の人と話す時間を設けたり(ペアワーク)、交流のミッションとして「3つの方法を探してこよう」といった具体的な仕掛けを作ったりする。

算数用語の活用と視覚化

「辺」や「角」といった構成要素に関する算数用語を使って、頂点Aの見つけ方を説明する児童は、ほとんどいなかった。

↓

算数用語を掲示に残したり、ワークシート上で「長さ」や「角度」を色分けして記述させたりすることで、何に注目して作図したのかを説明しやすくする工夫が必要。また、取り組み方に「コンパス法」などのネーミングをつける方法も考えられる。説明のモデルを示すことも有効。

タイムマネジメントと全体共有の充実

自力解決や個別支援に時間を割いた結果、全体共有の時間が短くなってしまった。

↓

全体交流の際は、書画カメラで児童のシートを提示したり、先生が板書で素早くまとめたりするなどして、対話によるインプット・アウトプットの量を増やす工夫が必要。

(今後に向けて)

・導入場面で本時の見通しをもたせる！

ただし、タイムマネジメントを意識して、本時のねらいにつながる内容を精選。

・アウトプットの機会を増やす！

考えをかくことはもちろん、自分だけで考えを話してみる時間やペアワーク、説明のモデル提示など。

・よりよい学び方の価値付け！

児童が学ぶ様子を見取り、その場で価値づける。※「よりよい学び方」をどんな姿と捉えるかについては、ミニ研修で共有する予定。

